

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市スポーツ推進審議会
- 2 開催日時 平成26年10月30日（木） 午後1時30分から
午後2時48分まで
- 3 開催場所 ケーズデンキスタジアム水戸（水戸市立競技場）
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 住谷 正己, 相吉 新一, 坂場 小弥太, 石崎 功, 高久 たかみ,
永野 智恵子, 大津 慶子, 岩間 秀男, 高橋 五志生, 仁平 克幸,
有川 忠司, 日下 裕弘
 - (2) 執行機関 五上 義隆, 笹島 武, 藤田 正大, 谷中 恒夫, 菅原 慎吾
 - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 水戸市スポーツ推進計画について（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
第2回水戸市スポーツ推進審議会
- 9 発言の内容
委員長：水戸市附属機関の会議の公開に関する規定に基づき、会議録署名人2人以上を置くこととなっておりますので、委員名簿順に従い、今回は出席されている___委員、___委員をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。
委員：異議なしの声
委員長：本日の議題は、協議事項1件が予定されております。それでは事務局から説明願います。
執行機関：（資料に基づき説明）
委員長：ただ今事務局からアンケートの内容を説明していただきましたが、時代も変わっていますし、今現在も市民マラソンのことなど、内容がこれにプラスされることになる

のではないかと思います。これは一般成人を対象とした意識調査でございます。確かに行動にすぐに結びつくかという点、ちょっとまだそこまではいかないと思います。

税金をお支払いになっている市民の方が、水戸市のスポーツに対してどういう意識を持っているかという調査でございます。

今、御説明した内容について、私自身すみませんが先に言わせていただくと、マラソンについての項目は絶対に入れるべきだと思います。それから、もう1つは市民運動会の在り方についてですが、もう既に事務局から話を頂いているのですが、地区ごとにみんな同じ運動会という形もないだろうと、もう少し地区のスポーツ推進委員の方々のアイデアをフルに生かしていただいて、地区独自のやり方があっても良いのではないかと、事務局のお話も伺っておりますので、その辺のことを市民の皆さんにざっくりと、市民運動会は今までのままで良いのか、それとも地区独自のアイデアで色々な形態のものを取り入れるようにしたいとか、マラソンも勝田マラソンのように盛大に42.195キロきっちりできるということは第一でしょうけれども、市民の方は必ずしも早いだけではなくて、完走できれば良いという人もいますし、中には障がい者の人もいますし、小さい子どもと家族で走りたいという人もいますし、42.195キロはちょっと無理なので10キロとか5キロとか、いろいろバラエティに富んだ形態もあって良いのではないかと、この意見も市民の方にあるのではないかと思いますので、その辺も掘り出すような質問も良いのかなと思います。

先に言わせていただいて申し訳ありませんでしたが、そういうことで皆さんから質問でもよろしいですし、これを加えたらとか、あるいはこれは要らないのではないのかという意見もありましたら、ざっくりと聞かせ願えればと思います。

___委員：よろしいでしょうか。施設の面で、前回の第1回スポーツ推進審議会から今回の審議会までの間に、行政のほうで大きなものというかわ変わったものがあれば説明願います。例えば、東町スポーツセンターの改修とか、水戸マラソンについても市長のコメントが市民のほうに発信されておりますので、その辺の内容について御説明願います。

執行機関：それでは御質問のございました、東町運動公園と水戸マラソンについて御説明させていただきます。

新聞でも報道されております水戸マラソンでございますけれども、水戸マラソンにつきましては、42.195キロのフルマラソンを水戸市内で開催するということが、今年の初めに庁内の合意がとれまして、前年度からコース（案）を委託して何案か作っていただいており、現在一つの案に絞り込んで、そのコースで開催が可能かどうか警察や道路管理者、関係団体等と協議をして、これからまた本格的に詰めていくというところの状況でございます。それで来年早々には発起人会を立ち上げまして、実行委員会の組織を作って平成28年度10月に開催したいという意気込みで、スポーツ課で頑張っているところでございます。

それと東町運動公園ですけれども、今年3月の県議会で館先生から質問がございまして、水戸市で東町の整備をする気があるならばというお話があり、それを受けまして水戸市で協議を重ねた結果、9月議会で市長から水戸市でやっというふうな表明

をしたところでございます。

東町についてはレスリング、フェンシング、アーチェリー、プールなどいろいろな機能がありますけれども、それらを全て残して体育館を改修していくということになりますと、敷地が若干狭いということで、体育館の改修についてはバスケットボールコート3面とサブに1面をとった4面を最低確保して、消防署が近くにあるので防災機能を備えた総合的な体育館を整備していければということで、現在、県と調整をしながら、基本計画を進めているところでございます。一応、今年度に補正予算をとって実施計画、実施設計に入っていければということで事務を進めているところでございます。

それと、ここ市立競技場の改修も新聞で報道されましたけれども、一種陸上競技場とJリーグのJ1の規格を満たすためには、観客席が1万5千人必要であり、現在は芝生席を入れて1万2千人程度ですけれども、個席で1万5千人を確保しないとJ1クラブライセンスがもらえないということで、そちらも去年、基本計画を実施した結果、現在の敷地では増築が難しいということなので、両サイドにできるだけ個席を増やして、足りない分はバックスタンドを拡張しようという計画で進んでおりますが、バックスタンドの改修となりますと、後ろの民家のほうにまで影響しますので、その辺を交渉しながら現在、事務を進めているところでございます。

大きな施設の状況としてはそういうところでございます。

委員長：マラソン、東町、スタジアムと3件の説明がありましたけれども、今の御説明について何か御質問はございますでしょうか。

___委員：もう1つだけよろしいでしょうか。陸上競技場は公認を取っているのでしょうか。

執行機関：はい、2種を取っております。それで1種の条件が観客席1万5千人ということでございますので、併せて目指して改修していきたいと思えます。

___委員：サブ競技場はどうなるのでしょうか。

執行機関：サブは3種を造らなければなりません、一度にはできませんので、まずこちらをやってからという考えでございます。

___委員：ありがとうございます。

委員長：そのほか何かございませぬでしょうか。マラソンは、水戸マラソンというのでしょうか、水戸市民マラソンではなくて。

執行機関：はい、それも実行委員会を立ち上げてからになります。それと会長がおっしゃいましたフルマラソンももちろんですけども、10キロや3キロなど、その間にやる競技についても全部はできませんので、実行委員会の中でどれが良いかということを検討していくということで進めております。

委員長：同じ日ではなくて時期をずらしてもよいでしょうね。一緒にやると混乱するかもしれないし。

10月というつくばマラソンなどとバッティングはしないわけですね。

執行機関：はい、県内のマラソンで一番早いのが11月につくばマラソン、1月の終わりに勝田マラソン、3月に古河はなももマラソンがあり、4月にかすみがうらマラソンが

あります。

水戸市では公認の大会を目指しておりますので、茨城陸上競技協会と水戸市陸上競技協会が関わっていただかないと公認の競技会にはならないので、そちらとも調整をしまして、日程的に開催できるのは10月の終わりぐらいだったら良いのかなということで進めているところでございます。

委員長：これができるようになると、盛大な大会ができて良かったという話もあるけれども、それに向けて頑張る市民も出てくるのですよね。今現在、走るのが好きで毎日自分でトレーニングをされている市民の方もいますので、そういう方も大いに期待すると思うのですよね。

その他、何かございますでしょうか。このアンケートの全般について皆様の御意見をお伺いしたいと思うのですが。

ちなみに前回の結果を簡単に申しますと、市民の大雑把な意向とすれば、身近な施設でいろいろな仲間と一緒にできて、安くていろいろなことができる施設やクラブがあると良いというのが市民の意見でした。今回もおそらく考え方は変わらないものが出てくるかなと予想はしております。

___委員：よろしいでしょうか。8ページの間24ですが、10番のプールでレクリエーション用とありますが、具体的にどういうものなのか、あるいは何か意図があるのでしょうか。

執行機関：これにつきましては、9番のプールの競技用というのは公認の25メートルや50メートルでありますけれども、競技大会で公認の記録がとれるようなプールということです。10番のレクリエーション用は、徒渉池など子どもたちが遊ぶとか、一般の方も公認の大会ではなくて自由に泳げるようなプール、滑り台付きとか流れるプールなどいろいろあると思うのですが、そこまでのプールはできないにしても、そのような自由に泳げる、子どもたちが遊べるような意味合いで分けております。

委員長：あと高齢者の方もですよね、それだと温水のほうが良いですね。小吹は温水ですよ。

執行機関：はい、そうです。

委員長：城里町にもホロルの湯というところにプールがあって、ちゃんとした指導者がついていて、リハビリをしたり健康増進のための体力づくりをやっている方がいますね。

あと私のほうから、2ページに運動・スポーツへの現在までの取組についてということで「するスポーツ」、「観るスポーツ」、「かかわるスポーツ」とありますけれども、これは「支える」ではなくて「かかわる」でしたでしょうか。

執行機関：そうですね、基本計画のほうでそうなっています。今の県のものなどを見ると「かかわる」となっています。

委員長：スポーツ基本法を見ても書いてあるし、県のほうでもそうやってほしいということですけども、マラソンをするにしても、ものすごく関わりというか支援するというか、支えるのがものすごく大変だと思います。

___委員：いくつかよろしいでしょうか。前回欠席ですみません、___と申します。どう

ぞよろしく願いいたします。基本的なところで申し訳ないのですけれども、このアンケートはいろいろな目的があると思いますけれども、実情とかニーズとかを掴んで推進計画のほうには反映をしていくのかどうか、その辺が一番分かればいいかなと思います。もう先に推進計画の案ができていますから、できているものに対して今から実情とかニーズを掴んでいくと、その内容が出てきたときに反映できるかどうかです。多分お金が掛かることなので、反映できないとすれば少し考えて目的を作らなければいけないかなと思っています。

それから千人という対象なのですけれども、おそらく100パーセント回収できないでしょうから、まあ700ぐらいのところで回収したときに、今は27万人ぐらいが水戸市の人口だと記憶しているのですけれども、それでデータとしては有益なものかどうかはちょっと分からないので、その辺のおさらいであるとか、それで子どもの体力ということで推進計画（案）をざっと見させていただいて、一番運動に日常の中で外れていくのは私は高校生のほうが、運動部活動、スポーツになかなか接しないと思います。中学校まではほとんど全員管理でやっていると思うので、切り離されていくときにアンケートの目的にもよるのですけれども、18歳以上が対象なので16歳、17歳は実情を知る意味では、多分必要になってくる年齢かなと思いつながり見ていたのですけれども、このアンケートを推進計画（案）の前にとっていけば、推進計画のいろいろなものに反映させるのだと思うのですけれども、推進計画（案）ができてからのアンケートだとすれば、それはどのように取り扱われていくのか。必要なデータだけピックアップして推進計画の中に盛り込んでいくのか、あるいはニーズとして押さえて、できるだけそのニーズに答えていこうとするものなのかというのが分かると、この文言等ももう少し吟味のしようがあるのかなと、個人的にそんな思いもあるものですから、概略だけ分かれば有り難いのでよろしく願いいたします。

委員長：まず、私のほうでお答えしますと、推進計画（案）のほうは随分前からできてはいたのですが、震災の影響があって、事務局そのものが動けなかったということでストップしてしまいまして、ストップした状態で今まで来てしまったものですから、それをそのままにはいかない状況も出てきましたし、新しい市としての試みと言いますか、計画がもう既に発しているということで、計画のほうは後ろから追いかけてきて、何だかちょっとあやふやな部分もありますけれども、何とか今現在の市民のニーズというものをまず的確に捉えて、前から続いている現在議題に挙がっている計画の修正すべき部分は修正をして、ちょっとすぐにはできそうもないというのは、例えば計画の中に入れておいただけ入れておいて、5年後にはまたこの計画が変わっていきみたい言い方をするというか、そのようなことも考えてはいるのですが、いずれにしても市民のニーズで出てきたことは、なるべく推進計画にもニーズとして反映させたいと私は思っております。

それと千人というのは、前も確かそのぐらいだったのですかね。統計的にはそれで良いという話だったと思いますが。

執行機関：基本的にはもっと少ない人数でも、水戸市の人口であれば問題はないというこ

とでは聞いております。

___委員：1つよろしいでしょうか。このアンケートは自分で答えられる人、まあ大人の人のアンケートですよね。その下に幼児とか小学生とかが一杯いるわけです。その人たちの親ですけれども、幼児に対するスポーツ施設とか、種目とかを全部含めた状態で、そのニーズ的なものはどういうものを持っているだろうかというようなアンケートも少しは必要ではないかと思えます。

委員長：私もそう思います。親に聞くのですよね。良いと思います。

___委員：1項目ぐらいで良いと思うのですけれども、まあ18歳の人に子どもがいるわけがないと思うのですけれども、このアンケートの年齢の人に子どもがいた場合はどうでしょうかというようなことを1つだけプラスしてもいいのではないかと思います。

委員長：いいですね。学校だけではできない部分というのはやっぱり地域できちっとしなければいけないし、それを親御さんたちはどう考えているかということですね。

それと先ほどあった高校生の問題ですけれども、高校生は生涯スポーツプランの中で一番穴ではないでしょうか。高校生が一番必要な部分であるはずなのに、むしろ体育嫌いを作ってしまった、運動から離れて行ってしまっている実情が確かにあると思います。まあ高校生の部分を含めて親御さんに聞くと良いのではないのでしょうか。

___委員：きっと時期的にアンケートは、推進計画の裏付けになりそうなものをピックアップして使うと今の時期はぴったりかなと思います。あまりニーズを捉えると、答えられない部分があるから。今、___委員さんからありましたけれども、幼児についてはやっぱり保護者に聞かないといけません。基本計画の12ページにもあるのですが、具体的施策の中で、芝生広場を設けると書いてあるのですが、実際はなかなか大変なことだと思っています。スポーツ課の問題ではないですけれども、今、公園ほど死んでいるところはないですよね。遊具が全て、ブランコとか危ないものは撤去してしまって空き地になっていますが、小学生がそこでボールを使って、ちょっと隣の家に飛んでいくと、隣の家の人に怒られて嫌な思いをしたりしますから、ひょっとしたら小さい子どもとか小学生も含めて、ゆったりと身近なところで遊べる場所があまり提供されていないと。だからお金があって、親御さんがしっかりと子どものケアができる家庭は、少年団とかいろいろなところで活躍をするけれども、一方で、一人親家庭が増えてきて経済的にも苦しい状況の中では、身近なところで遊ぶこともないし時間もないので、何か家の中でモニョモニョしているということが、実際は現実だと思うのです。そういう現実をどのように広げていくかというのが、多分、総合型のスポーツクラブであったり、そういう発想になってくると思うので、できるだけ住んでいるところの近くにそういう場所を提供していくような方向性がないと、一方で立派な施設を造っても、実はそこに来ている子は全体の5パーセントとか10パーセント、まあ競技場は競技力向上では問題ないのですけれども、でも一般的な体力向上ということを謳っていくときには、その辺が非常にネックになるのではないかなと思っています。いわゆる格差が広がってきて、学力でも体力でも、いろいろな面が非常に猶予されるという、そんなことを小学校の現場では非常に考えなければいけないかなと思います。従って学校の役割も当然出てくるのです

けれども、是非ここに書かれているような芝生があったり、不審者もいますから、安心してそんなことができたらいいのかなと思ったりはしているのですけれども。この時期ですから、アンケートの使えるものはこの中に盛り込んで、市民のニーズに応じているような句いをさせながら作成するのが一番良いのかなと思っているものですから。

委員長：やっぱり大人の責任なので、大人ができることといえば、身近なところの安心・安全な空間をいかに保障するか。そして、そういう組織とプログラムをいかに作るか。その辺のお話になるのかなと思います。

執行機関：このスポーツ推進計画については、うちのほうの姿勢としては20歳以上の人がいかにスポーツに関わって、運動をしている人が50パーセント以上を目指すというようなことから始まっています。ですから一番最初のアンケートの時は20歳以上を対象にしてやっていると思うのです。それで今回、高校生は学校で運動をしていますから、高校を終わって大学に行かない人まで対象を広げてやってみようかというところで18歳からになっています。なので、___先生が言われるように、学校のところから考えていくのも大事なのでしょうけれども、とりあえず今回のスポーツ推進計画というのはそこを対象に、そのスポーツに関わる比率をいかに上げていくかということを目標としているところだというように理解をして始まったところなのですけれども、そういうように広げていこうということであれば、また学校ともいろいろ調整をしながらまとめていかななくてはならないと思います。

この提出されている案というのは、___先生がおっしゃるように、途中で中断したままの計画がそのままここに載っているわけです。それで計画が仕上がれば、5年ごとに見直しがあることなので、今回は前のアンケートを使った案がここにございますので、このアンケートを採り直して、元の計画から見直しをするような感覚で始まっていたけると有り難いかなと思います。

委員長：実際、税金をちゃんと払っている親御さんたちが、自分の健康のためにやるような活動は主にやっているわけですが、しかしながら親御さんたちが一番考えているのは、自分の健康と同じぐらい自分のお子さんたちのことを考えていますので、そういうものはきっちりした項目としては挙げられないけれども、今回は成人と比較して意識としてどうなのかというぐらいで。

___委員：よろしいでしょうか。___委員さんに反論するわけではないですが、スポーツ少年団の小学生の状況を、統計をとって把握する必要もあると思いますし、中学生についての部活は中体連の先生がいます、高等学校もそうですけれども、そういう面である程度の把握はできると私は考えるのですが。

委員長：二極化の場合、そういうように漏れた子どもさんたちがいるので、その方の場合はそのような子どもにも目が届くわけです。一緒にスポーツに夢中になってやっているお子さんの場合は問題ないのですけれども、親とすればそちらのほうにも目は付けるべきで、親として守っていかななくてはならないと思うので、その辺のお話は非常に深いものがあるし、今後、考えていかなければならないと思います。

そのほかにライフステージ別のスポーツ振興というのは国全体の姿勢ですから。ライ

フステージというのは、生まれてから死ぬまで全部です。基本的にはこれを全部問題にしなければいけないと思います。

まあ今回は大人のアンケートですので、これにプラス親御さんの意見をちょっと入れるぐらいで良いのではないのでしょうか。

しかし、このスポーツ推進計画では、やはり全てのライフステージのスポーツ機会を考慮すべきだと私は思います。

___委員：分かりました。理解ができたのは、アンケートそのものは推進計画とは直接、密接に結びつくものではないという解釈をすれば良いのですよね。なぜかという推進計画は今お話があったように、もう基本方針の第一は子どもの体力向上なのです。ですから18歳以上は子どもの体力向上には反映しないので、捉え方としてはアンケートはアンケート、推進計画は推進計画で考えていくというような感じでよろしいでしょうか。アンケートの中で、ある程度のニーズは把握して使えるものは使いましょうという解釈でよろしいのですよね。そうしていただくと私も少しは楽で、前回資料をもらって基本方針を全部読んで、質問もまとめてきて、倉敷市や福岡市など他市町村も調べて、どうあるべきかということを考えてきたので、アンケートはあまり考えていなかったものですから、唐突なお話で申し訳ありませんが、そういう理解でよろしければ、進めていただいてもよろしいかなと感じております。

執行機関：今のお話なのですが、おっしゃる通りです。それで、実はこれを策定するに当たって前からやってきて、いろいろ地震があったりできないということで、前に採ったアンケートが古くなっているものですから、これに載せるときに成人の週1回以上のスポーツ実施率が、今度のスポーツ基本計画で何パーセントとかということで目標が掲げられて、それに合わせて前に採ったものが古いものですから、では今の水戸市の成人の週1回のスポーツ実施率は何パーセントあるのかということがあるので、それも含めて今回、またアンケートを採り直して、そのデータをこちらのほうに当てはめていきたいなということです。それとともに入れられるものがあれば入れて、新たなものにしていきたいということで御理解いただきたいと思います。

委員長：せっかくお金を掛けてやるわけですから、入れられるものは入れていただいて。

___委員：このアンケートの調査票の項目の前に、アンケートの目的とかねらいとかが書いてあると、受け取ったほうも分かりやすいと思いますので、その辺を整理していただければ問題はないかと思います。

___委員：よろしいでしょうか。私も前回参加できませんでしたので、___といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

隣に___先生がいるのですが、中体連でも高体連でもいろいろな調査研究をやっている部分もあるのです。それで一応まとまっているものもあるので、もし中学生、高校生のデータであれば、お出しすることもできますので、そこは中学生や高校生のアンケートを採らなくても調べられる部分はあるかと思います。

例えば中学校の県のほうの運動部の加入率は約72～73パーセント、これが高校に入ると40パーセントぐらいになってしまうので、30パーセントの子がやらなくなっ

てしまう。ところが高校に入ってなぜやらないのかというと、水戸まで学校に通う時間が掛かってしまって、部活をやる時間がないというのが実態なのですね。そういうこともあるし、その時に聞いたのが、御前山から水戸まで学校に来ている子だったのですけれども、今日は___委員さんもいらっしゃいますけれども、総合型地域スポーツクラブみたいなものがあれば運動はやりたいのです。ところが高校の部活は入れない、しかし家に帰ってやりたいのだけれども、場所はあるが借り方が分からないとか、そういう問題点もあるので、その辺を市町村で、時間的に結構空いている体育館もあると思うので、うまく総合型と結びついて、遊び歩く高校生を集めてやるようなシステムを作れると非常にいいかなと感じます。

___委員：全く今の意見に私も賛成で、アスリートになるとか選手になれる、そういう人はもうほとんど部活、小学生でもやっているのです。だけど落ちこぼれと言っては悪いかもしれませんが、補欠で終わるとか、補欠だからやめるとか、でもやめても何かしたいんだという気持ちがあるという人が、小さい子だけではなくて、上のほうにしても結構多いのではないかと思います。そういう人を、我々の総合型では救おうとしているのですけれども、限界があります。ですから必要なのは施設とか、施設は全て行政が持っていますから、だからそういう人がたくさんいるのであれば、行政で施設を少し造ってもらうとか、そういうことにも発展していくことにはなると思うのですけれども。したいけれどもできない人を救うというか、それもやはり一つの道ではないかなと思います。

委員長：そうですね。すごくそういうことに関しては総合型をどんどん立ち上げるというのは、なかなか難しいことで、まあ目標ではありますけれども、そういう意味では地域の中にいるスポーツ推進委員さんなど、そういう方々のいろいろなアイデアを出して、場づくりと言いますか、そういうものが必要になってくるのかなと思います。

___委員：私、___から来ているものですから、せっかくアンケートを採るのであれば入れていただきたいことがあるのですが、市民運動会が先ほどテーマに出ましたけれども、各地区32学区で一斉に開催しているのですが、内容はバラバラです。この市民運動会というのは、おそらく下げ止まりの人数でやっているのかなと思います。私も何十年もやっていて、前はかなりの人数がいたのですが、ここ4、5年は大体平均した人数になっています。ですからある程度分かっている人がやっていて、要は幅をもっと広げたいのですが、なかなかそれがうまくいかないという現状があるので、このアンケートの中の一文中に市民運動会に対しての項目を、参加していますかでも良いでしょうし、どう思いますかでも良いので、入れていただけたらと思うのですけれども。

委員長：私も実際に双葉台に住んでいまして、もう高齢化で、参加できるような方ばかりではないのです。

___委員：そうです、年寄りが多いのです。

委員長：正直言っているいろいろな方から聞いて、大変だなと思ひまして。ちょっと形態を変えたほうが良いのではないかと思います。

___委員：実際、子ども会に入らないことがあります。そうすると参加者も少なくなりま

すね。

委員長：この場合も、要するに地域そのものが崩壊している傾向にあります。町内会だけではなく、スポーツクラブなどもそうです。しかし、その中で黙っていて良いのかと、そうではなくて、その中でも何かやっていかななくてはならないわけですね。

___委員：ただ、歩く会なども私たちが地域で計画を立てたのですけれども、そういうニーズはすごく多いですね。親子で来たり、おじいちゃん、おばあちゃんが来たり、そういう連れて行ってくれる人が欲しいという要望が結構ありました。まあ限度がありますので50～60人が良いかなと思ったのですが、100人ぐらい集まりましたというのもありますし、ニーズはすごく多いです。

委員長：スポーツの特定の健康である部分の状況ですけれども、今おっしゃった、歩くということが基本ですね。

___委員：よろしいでしょうか。このアンケートの集計がなかなか大変だと思うのですが。集計は何か電子機器でも使ってやるのですか。

委員長：もうプロがいるのでしょうか。

___委員：手作業ですか。

執行機関：はい、手作業です。

___委員：千人と、その集計作業の絡みもあるのです。例えばコンピューターみたいなものでできるならば何万人とか、ただ手作業となるとなかなかスケジュールからいっても大変だと思います。

委員長：手作業だったら大変ですね。でもやるというのだから。

___委員：以前に体育指導委員の調査部会でやったことがあるのですが、もう手作業で毎晩徹夜でした。

執行機関：予算的なものもあるものですから、何とか手作業で頑張りたいと思います。予算は要求するのですが、なかなか付けてもらえませんので。

___委員：千人でも何か寂しいですね。

___委員：個人的に1回3千人を対象に、同じぐらいの項目数でアンケートをやって、それを打ち込んでもらうのに業者に頼んで、エクセルシートにだけ打ち込んでくれと頼んで10万円ぐらいでした。その後に単純集計をして、今はエクセルは早いので、例えばグラフにするとか、平均値を出すとか、度数分布を作るぐらいでしたら、きっと何とかなると思うのですが、打ち込むのがきっと、同じことを繰り返すからイライラします。その辺だけでも何かうまくどこかで打ち込む人がいれば、少し楽になるのかなと思います。

執行機関：その辺は、努力していきたいと思います。

___委員：水戸ですから3,100人とか。

執行機関：統計上は、千人でも2千人でも変わらないだろうということらしいです。そのようなことで予算的なものもあるものですから、千人増えればそれだけ郵送料も出ますので、そういうことであれば千人でも良いのではないのかなということ。

___委員：前回の結果はちょっと分からないのですけれども、年代別とか性別で、偏ると

いうことはないのですか、

執行機関：返信は偏るかもしれませんが。ただ送るのは人口割で比率きっちり送るのですけれども、回収となると、来てみないと分かりません。

___委員：スポーツに関心のない人は、こんなのいやとやられたらば、偏ってしまうとか、要するにスポーツに興味のある人はどんどん返送が来るけれども、興味がない、スポーツをしたことがない人は来ないということになる可能性が大きいような気がします。まあそれも仕方がないことで、どうしようもないのかもしれませんが。

___委員：興味があるというのは意外と穴があって、種目が決まってくるのです。無作為はそれで良いと思いますが、関心がある人に対してというのは、やはり種目性が強く出てきてしまうと思うのですが。

委員長：この手の調査は、本当は一般の市民を例えば千人とか2千人を対象にやるのと、もう1つは実際にやっている人に直に聞くのと2種類必要だと思うのですね。まあこれは一般市民の一般的な答え方だけということの良いのではないのでしょうか。

___委員：何度も発言して申し訳ないのですけれども、アンケートの対象については、もし検討の余地があるのであれば、障がいのある人とか、特に今は高齢者の割合が高いです。若い人たちのニーズも必要ですが、体力の維持を考えると高齢者を少し手厚くしていったほうがいいかなと思います。多分、若い世代は今までと変わらないのかなと思いますけど、高齢者は増えてきているので、ゲートボール場が欲しいなどという声も、まあその他で書けるようにはなっていますけれども、きっと今の時代であれば、前と比べて必要なのは障がい者と高齢者をどう捉えていくかというのがニーズにあるのかなと思っています。

委員長：そうですね、水戸市の少子高齢化は地方都市の典型的な例で、高齢者は大きな問題になりますからね。

___委員：あとは5年後に国体があって、国体の年に障がい者スポーツ大会が必ず回ってきますよね。それを考えると、計画にある障がい者スポーツのことを書いてあるところが多いのですけれども、いろいろ話を聞くと、特別支援学校などにおいて、学校にいるうちは障がい者の方もスポーツをする機会があるのだそうですが、卒業してしまっ後はほとんどないという状況が現状のようなのです。その辺のところのニーズに対して、おそらく国体が終わってからありますから、そういう話は5年後に出てくると思うし、県のほうでもそこは考えていると思うのですけれども。そこら辺を手厚くしたほうが良いのかなという感じはします。ちょうど東京オリンピックの後もパラリンピックがありますので、障がい者スポーツの部分は少し厚くしたほうが良いのかなという感じはするのですけれども。

委員長：そうですね、推進計画にはその辺もきちっと入れないといけないと思います。推進計画も5年ごとに、時代が変われば変わっていかざるを得ないのですけれども、大きな視点で見れば、高齢者も障がい者も大きな問題ですよ。

___委員：すみません。福祉の行政分野のほうで今、力を入れているのは、健康寿命にかなり目を向けているわけですね。それで一般的に60歳で定年、あるいは65歳で職場

を離れて、それから高齢者のグラウンドゴルフをやり始めるとか、あるいは高齢者クラブ等に入って、昔の老人会ですか、そういうところに入っているいろいろなことをやる。あるいは市民センターの講座に入っていることがあるのですが、それではアメリカ辺りでは遅いということで、40代辺りからそういった意識を持ってやっているみたいなので、40代層がどういった意識なのかを捉える必要性はあるのかなと思います。

平均寿命は女性は86歳ぐらいですか、男性も80歳を超えましたが、でも健康寿命だと女性も70歳代に落ちてしまうのですよね。寝たきりとか病気の方がはじかれますから。ですから一番良いのは健康でずっと生きたいというのが一人一人の願いであって、そういうことになれば行政負担が軽減されると、かなりの経費が福祉に掛かっていますから。それで介護を予防するために元気アップトレーニングとかをやっていますね。今はすごい勢いで指導者を養成しているようですから。その一步手前の40代あたりの働き盛りの方の健康に対する意識調査の把握をしておいて、その辺をつかんだアンケートにいただければと思います。

委員長：そうですね。なかなかそういう視点が、まだ市民というよりも日本全国民になかなか根付かないと言いますか、でも健康寿命という言葉は良いですよ。生活習慣病、病、病と脅していくよりは、健康で生きましよう。ただ、働いている年代というのは一番難しいですよ。一生懸命働いてお金を稼いでいる年代の方々というのは、スポーツに加わりなさいといってもなかなかできないし、自分の健康だけを考えるわけにもいかないというか、私たちも調査をやろうと思っても、一番難しい年代かもしれませんね。

___委員：以前は職場体育を推進するといって、市でも職場体育推進協議会というのができて、いろいろな関係者を集めてやったのですが、やはりなかなか進まないです。

委員長：そうですね。特に今の時代は、職場体育というのは職場の中で一番先に嫌われるのかもしれない。

全ライフステージを考えると、本当にたくさん問題があるわけですがけれども、それぞれのライフステージは、それぞれ特有の課題を持っていますので、それに対してどうするかという姿勢は、この中ではある程度はっきりした姿勢を出していかないとはいけません。それをどこまで実現できるかというのは、今後の努力の仕方、優先順位もありましようけれども、そここのところの把握だけは計画の中に入れていきたいなと思います。計画の中でそれくらいの努力とか配慮はしたんだよということだけは見せたいなと思います。いろいろ皆さんの意見を反映したいなと考えております。

その他、今日はこのアンケートに関することですがけれどもいかがでしょうか。

今日、意見に出ました親御さんの意見とか、市民運動会や水戸マラソンに関する項目を足すということですね。あとは高齢者、障がい者のことも入れておきたいですがけれども、まあ今、議論に出たことをちょっとプラスしてということによろしいでしょうか。集計がちょっと大変でしょうけれども、一次集計が大変ですね。

その辺で皆さんどうでしょう、よろしいでしょうか。

大体、後は事務局のほうにお任せいただいて、もう次に発送してまいりますので。

執行機関：よろしいでしょうか。今頂いた御意見を反映させて、うちのほうでアンケート

を作り直して、それを改めて皆様にお送りして見ていただいて、何かあれば連絡を頂いて、直して発送するような形で、今年度中にはやりたいと思いますので、そういった形でお願いできれば。また皆さんにお集まりいただくのもちょっと大変ですので。

委員長：それは有り難いですね。それでは是非、直して郵送していただければ。そうしていただけるとアンケートに関してはよろしいかと思えます。

それでは皆さん、それぐらいで今日の議題についてはよろしいでしょうか。

次回は、もうアンケートの結果が出まして、その結果を皆さんに報告いたしまして、少しでも推進計画のほうに反映させるということになります。

それでは以上をもちまして、議長の座を降ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。